

リビルド合宿 学生取材レポート

ピアノ調律科2年生は、9/30(月)~10/11(金)までの約2週間、三重県の「湯の山研修センター」でリビルド(再生)合宿を行いました。今回はその様子をレポートにまとめました。



↑水野 ↑森 ↑浅井

リビルド合宿とは?

現在のピアノ市場では、新品の普及と共に中古ピアノがリニューアルされる事も多く、リビルド技術も求められています。そのため、中古査定方法や作業方法を習得し、リビルドの流れを学びます。使われていないピアノや、大きな修理が必要なピアノをチームで協力し、品評会に向けて新品に近い状態に仕上げしていきます。



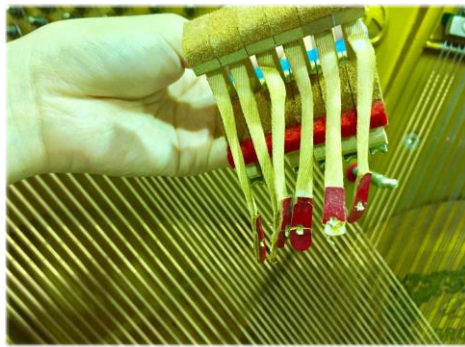
↑研修センター入り口

Before

このようなピアノの状態からリビルドしていきます!



↑緑色の粉が付着しワイヤーが錆びています。



↑ピアノ内部の部品が変色しちぎれています。



↑外装も鍵盤も汚れています。

After

リビルドで綺麗に大変身!



↑汚れが無くなりました!



↑全て新品に貼り替えピカピカに!

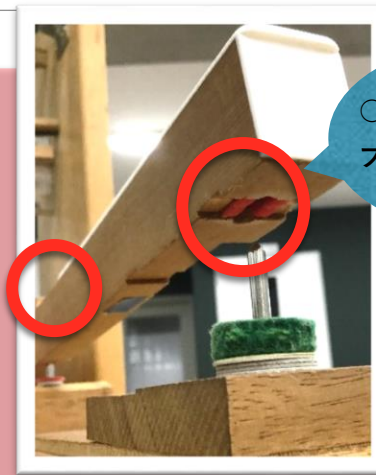


↑新品同様の輝きに!

さあ、リビルドとはどのような作業をするのか...その秘密の一部を教えちゃいます!

修理方法

こちらは、鍵盤のブッシングクロスを交換しているところです。ブッシングクロスとは、鍵盤を沈めた際に雑音が出ないようにするものです。全鍵に、前側と後側の計2箇所付いています。ブッシングクロスは何度も鍵盤を沈めているうちに圧が加わり、薄くなったり汚れたりして、鍵盤が必要以上に動いてしまったり、汚れにより雑音が出てしまいます。そのため、私たちはこのブッシングクロスを交換します。鍵盤は88鍵あり、1鍵につき2つのブッシングクロスが付いているので、全部で176回交換するということになりますね！相当な根気と忍耐が必要です…。



○で囲まれた所にブッシングクロスが。

木工用ボンドで接着して、ノミなどでカットするよ！



機械は重たいから長時間のバフ掛けはとっても大変！

こちらは、バフ掛けをしている様子です。まず綺麗にしたい箇所にコンパウンドという研磨剤を付けます。そして、ハンドポリッシャーという機械にウールや綿でできたバフを付け、それを高速回転させて外装に当てることで、細かい傷が消えていきます。

リビルド合宿では、部品交換や貼り替え、塗装など修理作業をたくさん行いますが、もちろん、調律や整調も行います。

様々な修理作業の音がある中、集中して調律をすることは大変でした！



まとめ

教材用ピアノではなく、お客様のピアノを使用しての合宿でした。初めは、ピアノを弾ける状態にすることで必死でしたが、次第に愛着が湧いてきたり、お客様のことを考えながら作業をする内に“見えないところまで綺麗にしたい、という気持ちが高まり、お客様が見ないところまでみんなで綺麗にしました。技術者の意識を持ち、お客様視点に立つことができました。あっ！という間の2週間。今回の経験を活かし、今後も実習に励みたいと思います！



↑綺麗になったピアノと私達♪

学校法人 中部学園（職業実践専門課程認定校）

中部楽器技術専門学校

CHUBU TECHNICAL ACADEMY OF MUSICAL INSTRUMENTS

〒466-0027 名古屋市昭和区阿由知通3-13-6



0120-856-854

TEL:052-741-6788 学校案内無料送付中

URL:www.chubugakki.ac.jp

